



2019年7月1日発行
 (毎月1日発行)
 1984年8月15日第3種郵便物認可
 発行所/(公財)熊本YMCA
 〒860-8739
 熊本市中央区新町1-3-8
 Tel 096-353-6397代



九州看護福祉大学准教授
 熊本YMCA常議員 学校事業委員会委員長 吉岡 久美さん

看護師16年を経て、大学の教壇へ

社会のあり方が大きく変わり、人生や仕事の多様性にも関心が高まりつつあります。吉岡久美さんは大学病院での勤務も含めて16年の看護師としてのキャリアの後、大学院で学び、現在は玉名市の九州看護福祉大学で教壇に立っています。週10コマ以上の講義と自身の研究、ゼミ生の指導、同居する親の介護、そしてボランティアとして関わる熊本YMCAの会議と、手帳は分刻みのスケジュールでびっしりです。

大学病院に勤務時代、実習生や新人、後輩の育成を担当していました。これが、吉岡さんにとって人を育てることの原点です。その後、他の病院に職場を変えた時、小規模の現場だからこそ気づいたことがありました。「看護と介護の連携の重要性」です。様々な職歴や性格の職員たち。当時、医療の現場では、職員の「介護」の知識や技術が必ずしも十分ではありませんでした。専門知識の大切さを感じていた頃、偶然見つけた熊本YMCA学院(専門学校)老人ケア科(後に介護福祉学科に改称)の求人広告に応募し、入職。16年の看護師キャリアから教員への転身。職業としては最初の転機でした。

経験から伝える、多様な人生のあり方

キャリアシフトしたからこそできる人材育成

YMCAで専任講師として2年を過ごした後、看護学のより専門的な知識を身につけようと大学院に進みます。吉岡さんにとって2つ目の転機でした。看護や介護の技術は日進月歩で進化します。修士を目指し勉強しながら最新情報の収集にも時間を惜しみませんでした。2004年、九州看護福祉大学に入職。その後、社会福祉学科の准教授に着任しました。3つ目の転機です。「社会福祉学科は、将来の社会福祉士や介護福祉士などの専門職を養成しています。そこで看護と介護の連携について様々なアプローチで指導しています。医療の専門職以外の仕事を目指している人に、医療を教えることはとても重要で、責任の大きさを日々感じています」と吉岡さん。学生の実習先に出向いた時には最新の機器や技術の情報収集、現役看護師や介護福祉士とのコミュニケーションに余念がありません。「私は今、教育者であり、研究者。常に情報を集め、分析するのが務めです」。

吉岡さんの研究室から巣立っていった卒業生の多くが福祉の現場に就く一方、全く異なる業界で会社員になる学生もいます。「学生に『福祉の仕事に就きなさい』とは決して言いません。むしろ、どんな仕事をしてもいいと」。卒業生が、仕事に悩み吉岡さんのもとに相談にやってくることもしばしば。「卒業生の話をよく聞いて、状況が深刻だと思った時はこう言うようにしています。『辞めてもいい。一度離れてみるといろんなことが見えてくるよ』」。キャリアシフトのたびに自分自身を見つめてきた吉岡さんならではの助言です。



YMCAの精神をYMCA学院から

今期、吉岡さんは熊本YMCAの常議員に選出され、YMCA学院を支える学校事業委員会の委員長に。YMCA運動・事業に責任が伴う役割ですがプレッシャーはありません。「職員としてYMCAに在職したのは2年間でしたが、その後もボランティアとして関係は続きました。上下関係や肩書にとらわれず、関係がフラットなのがYMCA。頼まれたら断れませんよね」と笑います。

「九州看護福祉大学では、入試前のオープンキャンパスで卒業生も高校生を出迎えます。社会人となった卒業生との接点を通して、高校生に卒業後の自分の姿をイメージしてもらうのが目的です。一方で私たちはこの取組みによって卒業生との関係も維持できます」。吉岡さんはこのようなネットワークづくりはYMCA学院でもできる、と語ります。1948年(昭和23年)、戦後の混乱期に専門学校の前身の簿記学校から始まった熊本YMCA。その歴史はYMCA学院の歴史でもあります。「YMCAの精神を専門学校から発信したいですね」。

バッグの中にはマザーテレサの本の表紙が顔をのぞかせていました。「楽しさを求め、知的探求心を失わないこと。あとは『人を大事に』が信条、かな?」。穏やかな口調がいつもと変わらない吉岡さんでした。

Pickup

水遊び、楽しいね!
 熊本五福幼稚園



「当たれ!」
 桃田運動公園
 フリスビーであそぼう

「うまく描けたでしょ!」
 体育英語幼稚園
 ラッコクラス父の日制作



Information 行こう 見よう 深めよう

7月18日 Thursday

スクスク子育て 離乳食クッキング

子育て
×
クッキング

初めての離乳食づくり…「味付けは?」「大きさは本当にこれでいいの?」SNSや離乳食の本を見て、不安になっている方はいませんか? 離乳食の素朴な疑問にYMCA学院「子どもの食と栄養」の講師がお答えします。「離乳食は先だけ」という妊婦さんも大歓迎です。発達に合わせた離乳食について学んだ後は、実際に調理実習を行います。保育者をを目指す学生たちと一緒に実習に入りますので、安心して調理実習に参加していただけます。

回 7月18日(木) 10:00~12:30 場 中央センター
(熊本市中央区新町1-3-8) ※近隣有料駐車場をご利用ください 費 大人1人500円(保険・材料費込) 定 10名 持 エプロン・三角巾・飲み物・鏡・子ども用食器(お持ちの方のみ)・その他各自必要と思われるもの 託児はありませんが、お子様と一緒に参加可能です。

場 YMCA学院 Tel 096-353-6393



8月9日 Friday

フィランソロピー協会 企業交流会 on ビール列車

列車
×
交流

大人気のJR「ビール列車」を1両貸切(3両編成)。ビールと車窓からの風景を味わいながら、業種や立場を超えて交流を深めませんか。

回 8月9日(金)

集合・解散 17:30 熊本駅前広場(熊本駅電停そば)
集合 / 21:41 熊本駅着・解散(予定)
費 6,500円(往復JR券+ビール飲み放題+お弁当が含まれます)

因 JR「ビール列車の旅」熊本～三角間で景色や会話を楽しみながら交流します。
用 所定の申込書に必要事項をご記入のうえ、事務局までメールまたはFAXでお送りください。参加費は、開催前日までに直接お持ちいただくか、指定口座へお振込みください。
催 YMCAフィランソロピー協会 旅行企画・実施九州旅客鉄道(株)JR九州旅行熊本支店
場 YMCAフィランソロピー協会(事務局 公益財団法人熊本YMCA)
Tel 096-353-6397 Fax 096-324-7877 E-mail ymca.philanthropy@gmail.com



8月21日~31日

出会うべき世界が、そこにある。タイ・ユースワークキャンプ

学び
×
交流

熊本YMCAが長年支援活動を行っている北部タイで、山岳民族の暮らしや文化にふれ、相互理解や異文化交流を深めます。彼らの自立支援のため、タイの人々と協力して生活設備の整備を手伝います。また、現地の子どもたちとの交流を通して、タイの抱える問題や文化・歴史についても学びます。

これまで多くの人々が参加し、考え方・生き方が変わったという声をたくさんいただいているこのワークキャンプ。あなたも、タイの人々の暮らしを共に体験し、彼らの前向きな生き方にふれ、「真の豊かさ」について考えてみませんか。

回 8月21日(水)~31日(土)

場 タイ国 チェンライ・メーサイ

因 高校生以上、35歳まで(健康に問題がなく主体的に参加できること)

因 ワーク・タイ山岳少数民族の子どもたちとの交流・学校訪問・タイの伝統文化体験・ホームステイなど

費 10万円程度(通常26万円のところ、青少年に限り最大6割の助成を受けられます)

定 20名(最少催行人数8名)

用 7月17日(水)までに所定の申込用紙を提出してください。
場 参加者は事前研修(2回実施予定)に参加していただきます。

・海外旅行傷害保険への加入が必須です。各自でご加入ください(熊本YMCAコーストラベルでも加入できます)。

催 公益財団法人 熊本YMCA

旅行企画・実施(株)日専連ツアーズ 観光庁長官登録旅行業第1085号

場 熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397



回日時 場会場 因内容 費参加費 定員 因参加条件 持持ち物 対対象 催主催 締締切 用申込 問問合せ 他その他

岡総主事の

タラント Vol.60



自分ごと

私たちは、世界中で起こる災害、事件事故の報道に日々ふれています。その時、邦人の犠牲者がいないと聞くと、安堵すると同時にその事件事故に関する意識が薄れてしまうことはないでしょうか。また、日本全国の様々な事件事故も、日常生活を優先し、時間と共に忘れてしまうことがあります。その出来事を「自分ごと」として捉えることができていないのです。

3年前の熊本地震で、私たちは様々な復旧復興活動に取り組むことができました。しかし、24年前の阪神淡路大震災、8年前の東日本大震災をどれだけ自分ごととして捉え、そこから学び、何を継承すべきかを考えることができていたでしょうか。様々な情報が溢れるほど、人の感性は鈍くなりがちです。「他人ごと」は、どうしても自分ごとになるのか。他の人に起こったある事象を、まるで自分に起こったことのように捉え、その気持ちを想像したり、情報を心で受け止める力、つまり「感受性」が大切なのだと思います。

日々の仕事においても、人から任せられたことを「自分ごと」としてやるか「他人ごと」としてやるかで、その成果や方向が大きく変わってきます。「自分ごと」として取り組む人は、どんどん

成長するし、期待以上の結果をもたらします。「他人ごと」として取り組む人は、言い訳や愚痴も多く、期待値を下回ることがあります。働きを自分ごと化して行動することで、組織に対する満足度や幸福度が増し、働きの成果が向上するという相関関係が見られ、チームの士気が5倍にもなるという研究もあります。

私たちYMCA職員にとって大切なことは「神と人に仕え、社会に奉仕する」志を持つことです。そして、YMCAの会員も同じ志を共有する仲間です。相手に尽くす心構えで日々のコミュニケーションを図り、チームとして「愛の実践」を内外に広げ、示していきましょう。社会に貢献できる生き方へと変革していくことで、自らが「ポジティブネット」を体現する者となるよう、ともに歩んでいきます。

t a l a n t o n

R | E | P | O | R | T

[6月1日⇒ 6月7日]

防災 親子で防災キャンプ 尾ヶ石保育園親子遠足

6月1日(土)、尾ヶ石保育園の園児と保護者が第3回となる防災キャンプをYMCA阿蘇キャンプで楽しみました。熊本地震の経験を踏まえて「助かる防災」「助ける防災」をテーマに実施しました。

「自然で受けた傷は、自然で癒す」。最初に阿蘇キャンプ近隣の「車帰水源」を訪れ、美味しい水を皆で飲み、森の恵みをいただきました。星の広場では、ゲームや風を感じるバルーンを楽しみ、親子の交流を深めました。続いて、災害時に役に立つサバイバルの技術を学びました。親子で夢中になって火おこしに取り組み、ピザ作りやスナックパン作りで

は親子で協力。野外調理を堪能しました。

今年から新しく救急法体験を取り入れ、AEDの使用法、身近なものでの担架の作り方、熱中症対策、蛇や害虫に刺された時のためのポイズンリムーバーの使い方、ロープワーク、三角巾の活用等について熱心に取り組みました。

保護者からは、「今回が3度目の参加ですが、年々、野外調理が上手にできるようになって、びっくりします」と感想が聞かれました。今後も親子で楽しみながら災害へ備える活動を行っていきます。

職員 久保誠治



防災 巨大地震の備えに何が必要か 復興トーク&映画上映会

6月2日(日)、中央センターで「障がい者と災害」をテーマに「復興トーク&星に語りて映画上映会」を開催しました。NPO法人自立応援団が主催し、きょうされん熊本支部・熊本YMCAなどが共催。

「街ができた!住民も復興の担い手だ」と題した講演では南三陸町障害者自立支援協議会会長の鈴木清美さんが、東日本大震災発生時から現在に至るまでの活動を通して、一步一步復興する東北の歩みについて説明。熊本地震で被災した聴講者にとって、復興の希望を見出すヒントと励ましになりました。

続く復興トーク「巨大地震の備えに何が必要か?」では、講演者の鈴木清美さんと熊本地震当時、益城町総合運動公園で避難所運営にあたったYMCA職員の丸目陽子さんが、会場とのかけ合いも交えながら様々な事例や経験を語り合いました。各復旧復興のステージの中、課題も変化し、支援のニーズや在り方も変わっていることなどが確認されました。災害時の障がい者の状況と支援者の活動を描く映画「星に語りて」も鑑賞。様々な団体、個人がつながりを持ち、日頃から備えていくことの重要性を改めて感じる機会となりました。



花の日 地域の皆さんに「ありがとう」 花の日訪問

キリスト教の「花の日」にちなみ、熊本YMCAでは毎年6月に幼稚園、保育園、幼児園の子どもたちが、地域を訪れ、花とともに感謝の気持ちを伝えています。

「花も人も神様から与えられ、守られ、愛されて育ってきました。その感謝と喜びを日ごろお世話になっている皆さんと分かち合ひましょう」。6月5日(水)、永草保育園では園児たちと花の日訪問の意味を確認して出発。年長児と年中児10名が阿蘇市役所や区長、民生委員などを訪問しました。市役所では、子ども讃美歌「このはなのように」を手話と

ともに披露。阿蘇副市長の和田一彦さんに「ありがとう」の言葉と花を届けました。

他にも、クラスごとに分担して、普段見守ってくれている永草地区の一人暮らしの高齢者宅一軒一軒に花を届けました。「むぞらしか(かわいいね)」「暑かったら〜。ありがとう」とうれしそうに迎えてもらう様子を見て、子どもたちの幸せを届ける力を改めて感じました。園児たちは、保護者や地域の皆さん、そして神様に大切にされていることを実感することができました。

職員 高橋 暲



チャリティ 子どもたちのためにできること チャリティボウリング大会

6月7日(金)、YMCAフィランソロピー協会の第17回チャリティボウリング大会に13企業・団体から23チーム、約100人が参加しました。1チーム4人のチーム対抗戦。前半戦は各プレイヤーが1ゲームずつ、後半戦は4人が交互に投げるという方法で、計6ゲームのスコアを競いました。ハーフタイムには企業PRも行われ、チーム一丸で臨む後半戦はさらにヒートアップ。恒例のストライク募金では、ストライクを出す度にプレイヤーが100円を募金し、周囲のチームからは祝福のキャンディもプレゼントされました。

今大会の優勝は、3連覇の亀井通産チーム。ストライク募金とチャリティ抽選会では、6万円を超える

募金が集まりました。抽選会や表彰には、多くの企業から寄贈品が寄せられ、豪華賞品に驚きの声も上がってました。

参加者からは、「子ども連れでも参加でき、十分に楽しめた」「異業種交流もできるので、ぜひ来年も参加したい」という声が寄せられました。大会の益金をもとに、今年の夏、YMCAフィランソロピー協会は、仮設団地の子どもたちのための会社見学ツアーを計画中です。次は皆さんも一緒に仕事帰りにいい汗を流し、楽しくボランティアができるチャリティボウリング大会にぜひ参加してみませんか。

職員 原美幸



特別講演「SDGsとYMCA運動～2030年の世界」

熊本YMCA会員大会で、日本での開発教育の第一人者である田中治彦さんによる特別講演が行われました。その一部を抜粋してご紹介します。

熊本YMCAとSDGsとの歴史には、3つの時代があります。最初は日本で開発教育が始まった1980年代。熊本をはじめ全国各地のYMCAも当初から国際協力募金とともに、開発教育に積極的に取り組みました。2番目は2000年代。公立学校で「総合的な学習の時間」が始まり、国際理解・環境教育が取り入れられます。国連ESD(持続可能な開発のための教育)の10年も始まります。熊本YMCAでは「ESDとまちづくりのワークショップ」を行い、YMCA同盟ではグローバル市民を育てる「地球市民プログラム」が行われました。そして、2016年からのSDGs(持続可能な開発目標)の時代となり、熊本YMCAでも取り組みを開始しています。

そもそもSDGsとは何でしょうか? 国連では2001～2015年に「国連ミレニアム開発目標」(MDGs)を設定しました。発展途上国への支援を主に8つの目標を掲げ、極度の貧困解消など多くの成果が上げられました。一方でCO₂増加など残された課題もあります。2016年に策定されたSDGsでは、残された課題に加え、発展途上国・先進国ともに取り組むべき課題について17の目標を設定。数値的な改善だけでなく「誰一人取り残さない」という強いメッセージを含んでいます。といっても17個全部覚える必要はなく、知っておくべきは

3つの原則です。1つは「共生・包摂(inclusion)」。

差別を許さず、不利益を得ている人々と共生する考え方です。2つ目は「公平・公正(equity)」です。先進国と発展途上国に「平等」な目標を設けると、貧しい国ほど負担が増えがちです。そのため、状況に合わせて負ってもらう「共通だが差異のある責任」を設定。問題を次世代に棚上げしない「世代間の公正」、国同士の格差を排除する「世代内の公正」を目指します。そして3つ目は「循環(circulation)」。

自然の循環の切断=環境問題を解決するための考え方です。



田中治彦さん

上智大学グローバルコンサート
研究所員/開発教育協会理事

SDGsの考え方は日本の教育にも取り入れられはじめ、2020年度からの学習指導要領の前文にも教育目的として明記されました。しかし、YMCAはすでに1980年代からこれらの課題に取り組んでいます。SDGsのゴールとなる2030年に向けて、なすべきことは何か。それは、情性で活動を続けるのではなく、先ほどの3原則から17目標の真髓を読み解き、視点を改めて「自分・地域・国・世界」をつなげる視点を持ち、2030年の世界を想像して今すべきことを考えることです。

常議員紹介

地域活動、国際活動など、熊本YMCAの運動を支える維持会員。その代表で構成される常議員会が6月より新たな10名を含めた20名体制でスタートしました。



写真上段左から

西川 晶子 さん (リソース)
吉村 千恵 さん (阿蘇)
佐藤 通彦 さん (熊本五福)
守田 富男 さん (ウエルネス)
吉本 貞一郎 さん (リソース)
加藤 國博 さん (東部)
吉岡 久美 さん (学校)

中段

岩本 芳久 さん (熊本五福)
生駒 春美 さん (中央)
来海 恵子 さん (むさし)
藤本 義隆 さん (阿蘇)
山内 恵美 さん (水前寺)
森 博之 さん (みなみ)
藤田 香織 さん (リソース)

下段

立野 泰博 さん (グローバル)
平山 俊生 さん (ながみね)
岡 成也 さん (総主事)
福島 貴志 さん (会長)
宮崎 隆二 さん (副会長)
西 章男 さん (中央)
岩本 守弘 さん (みなみ)

※()内は所属運営委員会・事業委員会。会長、副会長、総主事は必要に応じて各委員会に陪席します。

わたしと聖句

熊本南キリスト教会 朴哲浩



ルツ記

1章5節 マフロンとキルヨンの二人も死に、ナオミは夫と二人の息子に先立たれ、一人残された。

4章14節 女たちはナオミに言った。「主をたたえよ。主はあなたを見捨てることなく、家を絶やさぬ責任のある人を今日お与えくださいました。どうか、イスラエルでその子の名があげられますように。」

逆転勝利を与えてくださる神

この度、私が着任した熊本南キリスト教会は、2016年4月に起きた地震によって、その会堂が大規模半壊となりました。聞くところによると、再建のための資金はわずかで、ブルーシートを張る作業に天草から駆けつけてくださった牧師からの「いつ建て直しますか」という問いかけに、代表執事さんは何も返事ができなかったようでした。さらに、このままだと教会がつぶれるかもしれないとの危機感を感じるほどでありました。

しかし、3年経った去る5月6日に、当教会は「献堂式および牧師就任式」を執り行うことができました。全国からの支援により、すべての必要も満たされ、新たなスタートを切ることもできました。奇跡が起こると同時に、逆転勝利を経験することになったわけです。

上記のルツの物語も同様です。すべてを失った悲しみで始まったルツとナオミさんのストーリーは、大喜びと賛美の歌であふれることで終わります。

皆さんは、何か悩み事でもありませんか。失望しないでほしいです。逆転勝利は必ずありますから。

発行所/(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人/岡成也 編集人/因幡 亮治
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2019年度基本聖句

マタイによる福音書 22章39節
隣人を自分のように愛しなさい。